

2023 年 11 月 24 日

通貨ニュース

トルコ: 11 月金融政策会合～近い将来の利上げ局面終了を示唆

トルコ中央銀行 (TCMB) は 11 月 23 日、+5.00%ポイントの利上げを発表し、政策金利を 40.00%に引き上げた。市場予想では+2.50%ポイントの利上げが予想されていたため、利上げ幅は市場予想の 2 倍となった。

近い将来の利上げ局面の終了を示唆

声明文において、TCMB は「現在の金融引き締め水準はデysinフレ路線を確立するうえで必要な水準にかなり近い」、と説明している。さらに、TCMB は先行きの引き締めペースを減速させ、金融引き締めは近い将来、終了することになるだろう、と表明している。12 月 21 日に控える次回金融政策決定会合で TCMB が利上げ幅を+2.5%ポイントに縮小したうえで利上げ局面終了を宣言する公算が強まっている。

10 月分の消費者物価指数 (CPI) は前年同月比+61.4%と高水準であり、年末から来年初めにかけて、まだしばらくは加速が予想される (TCMB は 2023 年 10 月公表のインフレーションレポートで、2023 年末の CPI の伸び率を+65.0%と予想)。従って、引き上げ後の名目政策金利 40.00%と比較して CPI の伸び率が高く、実質政策金利のマイナスの状況は当面、継続する見込みだ。

市場予想の 2 倍の大幅利上げを受けて、TRY は利上げ発表直後こそ対ドルで 28.8 から 28.6 まで+0.7%反発したが、その後は会合前の水準へと押し戻されている。実質政策金利のマイナスもあり、利上げ後 TRY を積極的に買い進める動きは今回もマーケットでは見られなかった。

TRY の減価ペースの鈍化を受けて、主要通貨との金利差に着目した資金流入が再開する可能性も

とはいえ、今後、TRY に対する見直しの動きが徐々に広がる可能性は高まりつつあるだろう。トルコの政策金利は 40%に引き上げられた一方、FRB や ECB の利上げは打ち止めになった公算が強まっており、TRY と主要通貨との間の金利差は一段と拡大している。リラは 6 月の利上げ開始から+31.50%もの大幅利上げにも関わらず下落が続いている状況だが、下落ペースは緩やかとなっており、リラの下落を金利収益でカバーすることが期待しやすい環境になりつつある。こうしたキャリトレードの動きは、米金利を始めとする外部環境に左右される面が大きいほか、トルコ国内でも来年 3 月に控える地方選挙をはじめ、政治情勢・経済政策には依然として不透明感が残る状況だが、マーケットのトルコ金融市場に対するスタンスの変化が見られる可能性も意識する必要があるだろう。

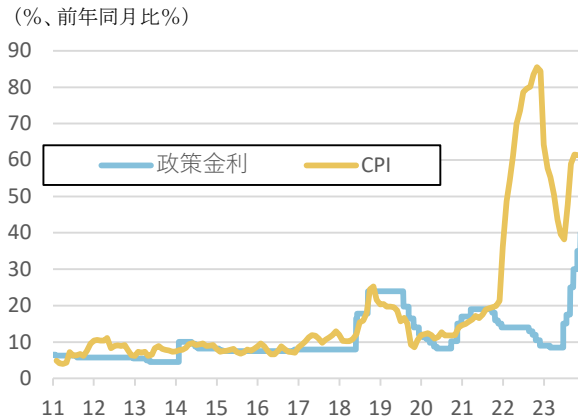
欧州資金部

シニア為替ストラテジスト

中島 将行

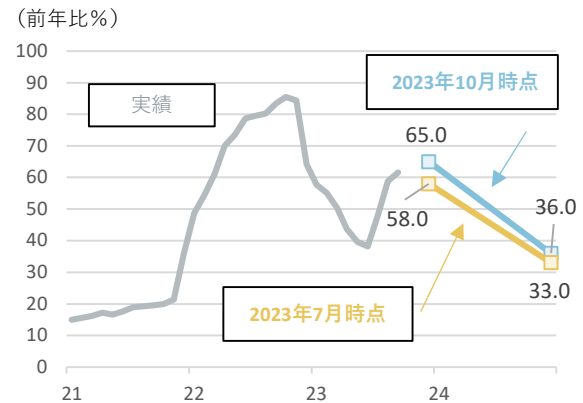
masayuki.nakajima@mhcb.co.uk

図表 1:政策金利と消費者物価指数(CPI)



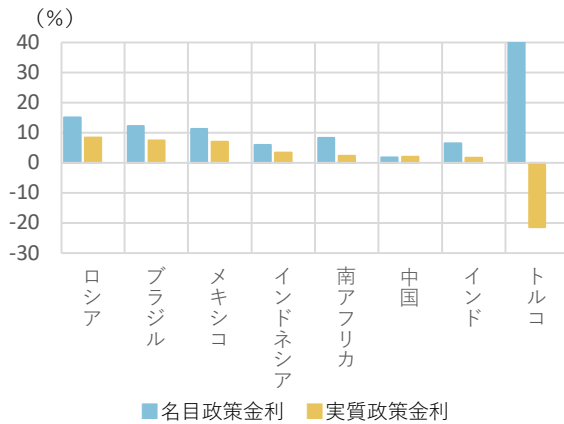
出所:トルコ中央銀行、トルコ統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2:トルコ中央銀行の CPI 予測値



出所:トルコ中央銀行、トルコ統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

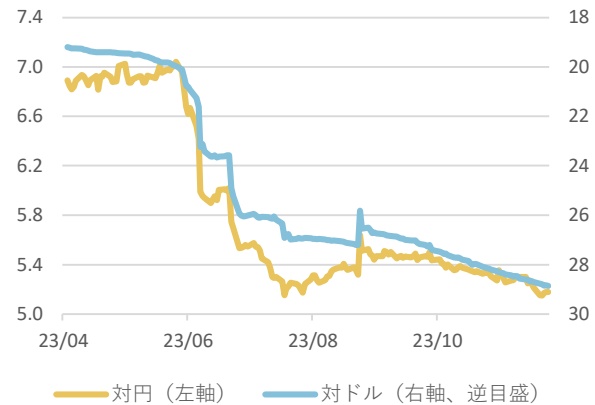
図表 3:新興国 名目政策金利と実質政策金利



注:2023 年 11 月 23 日時点で取得可能な最新のデータを使用。実質政策金利は、名目政策金利から消費者物価指数の前年比伸び率を差し引いて求めた。

出所:各国統計、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4:TRY の動向



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。